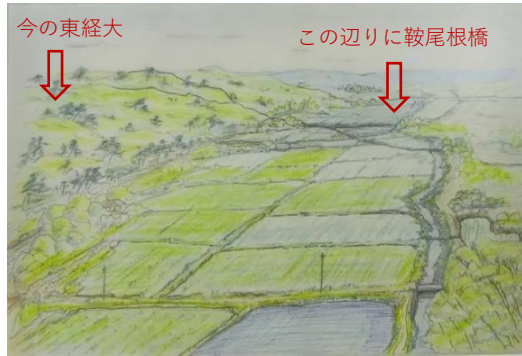


野川の思い出

第四地区 新倉 正勝

伊勢湾台風以前のまだ家がほとんど無い頃の、野川とその先の田んぼは見事だった。この当時、野川は大川と呼んでいた。それは、野川とほぼ平行に丸山裾を流れる小堀と呼んでいた小川があり、これに対して大川と呼んでいた。小堀は丸山からの湧きだろ。今はほとんど地下パイプ内を流れているが、所どころ地表に出て流れている。この小堀の水が田んぼへ供給されていた。野川の水位は田んぼより低く、田んぼに供給できない。

馬や牛がスキを引き、田んぼを耕していた。田植えが終わってしばらくして根付いた稲は、数日ごとに緑が濃くなり稲穂が成長する。秋の稲穂も見事だった。



丸山から鞍尾根橋を望む(昭和初期 本多克己氏 スケッチ)



庭先に青鷺が

夏は 正確には分からないが、沢蟹が取れる時期があった。現在の丸山通りの東経大南の信号から、駅に向かって 30mほど行ったところにあるクリーニング屋さんあたりに山に入る小道があって、湧き水が流れ出ている、そこで沢蟹がとれた。

今から思えば、野川流域の景観を大きく変えたものといえば何と云っても 1959 年 9 月 26 日の伊勢湾台風である。あふれた水で泥や、がれきが 田んぼに流れ込み、田んぼをつぶしてしまったのだ。野川と丸山の裾まで 100m前後の幅で上流から下流へと続く田んぼは、ほぼ全面泥水に覆われてしまったのだ。

もう一つは護岸のためのコンクリートの壁、それを保持する梁だろ。これはいつ頃 設置されたのかと 調べてみたが分からなかった。妹がこの梁の上を渡っていて落ちそうになり、内股を擦りむいた事件を思い出、1964 年ごろには存在していたのではと思われる。

私が子供のころ、野川で白鷺、青鷺、鴨などの野鳥は見なかった。つまり、これらの鳥が生活できるだけの魚はいなかった。それだけ川の水はすでに汚れていた可能性があったということだ。

そういえば、当時アメリカ ザリガニはいくらでも取れたが、魚は捕れなかった。

徐々に市街が進むなかで、当時まだ下水設備は完備されてなく、生活排水はそのまま川に流されていた。現在は下水管が整備されて汚水が野川に流れ込むことはない。近年野川流域では白鷺、青鷺、鴨、その他多くの野鳥を見るようになった。我が家の庭先に青鷺が降りたこともあった。

昔より、餌となる魚が増えたというなら喜ばしいことだ。 現在やっとな昔に戻ったきれいな野川の水を、今後ぜひ維持したいものだ。

雨水で蛍を育てています

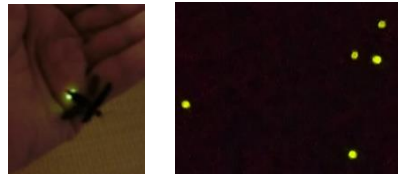
第四地区 成瀬 健生(87 歳)

我が家では時期になると、表に「庭にホタルがいます」という張り紙をします。通る方は殆ど「蛍よりスマホ」ですが、中には気が付かれて、暗くなって見に来られる方もおられます。昼間、私が表にいるとき、通りがかりの人から「蛍を見せていただきましたよ」などと話しかけられたりして、そんなときは結構嬉しいものです。

もう10年近く、国分寺のシンボルマークが「ぶんじほたるホッチ」に決まる前から、成功・失敗を繰り返しながらやっています。事の始まりは、「おたカフェ」の「水の学校」で雨水の活用の話を聞いたことです。

「そうか、雨水をタンクに貯めて庭の隅の U 字溝に少しずつ流し込めば、メダカでもホテルでも飼えるはずだ」と気が付いたのです。

まずプラスチックの雨水タンク(2500)を買って、庭の隅に置き、カーポートの樋とつないで水を確保、下の蛇口からホースで U 字溝に水をちょろちょろ、ぼたぼた。まずメダカを入れました。最初のホテルの幼虫は越谷の飼育場から買いました。その年は2匹ほど羽化して光ってくれました。



それから、国分寺の「蛍よもう一度の会」にも入れていただいて、先達の指導も受けて、毎年6~7月、庭で羽化し次第、産卵用の籠に入れて皆さんにお見せしています。

子供を連れて見に来られる方がだんだん増えていきます。「初めてホテルを子供に見せられました」とか「私も本物は初めて見ました」という方もおられたりして、少しは皆様のお役に立っているのかなどと考えています。いつまで続けられるか解りませんが、出来るうちは続けたいと思っています。

写真は、私の掌から飛ぼうとする姿と籠の中で数匹それぞれに光っているところをブログに載せたものの転載です。

役名	氏名	出身地	市内 在住歴	趣味・特技	その他
会長					
副会長					
副会長					
書記					
会計					
会計監査					
会計監査					

個人情報のため、
表示を控えます。

編集後記 今年の自治会は想定外の出来事に思うように活動できず、だより7月号も休刊せざるを得ませんでした。今回、皆様のご寄稿により、だよりをお届け出来ますことを感謝致します。また、編集委員に尾添さんを新たにお迎えし、一層紙面作りに頑張ってもらいます。(安光)